

《米良 美一》氏

波乱万丈物語～未来へ向けて～

私の生い立ちと音楽

私は 2014 年にくも膜下出血で血管が破裂し大変危険な状態になりましたが、その少し前から、自分の生き方を変えなければいけないと思うようになり、自分のことを認めつつも、改心の余地のある限り学びを求めていきたいと思っています。本日は、皆さんに対し、私が教えていただいたこと、人との出会いの中で気づいたこと等をお伝えしたいと思います。

さて、くも膜下出血の話をしました。それが苦難の初めではなく、生まれつきの先天性骨形成不全症という成長期が一段落するまで骨折が多発する難病であり、成長障害という身長も伸びずゆがんでしまう状態でした。両足の骨折を繰り返していた日々でした。

そんな私でしたが、「もののけ姫」を歌う機会に恵まれたこと等、良い思い出いっぱいさせていただいたわけ。それなのに、誰も自分のつらい気持ちをわかってもらえないとか、すっかり被害者意識で歌っていました。

私は子どものころから身体障がい者で、今でいう支援学校に通っていましたが、途中一時的に地元の学校に行ったときもありましたが、大半を親元から離れ施設で暮らしていました。施設では集団生活で厳しく育てていただき、支援学校で出会った先生の大きな愛とご支援のおかげで、今の職業に至る音楽の勉強も始めることができ、今の自分があると思っています。

高校生の時にその先生の勧めもあって宮崎県で開催された音楽コンクールに出場しました。高校 2 年で銀賞をとり、3 年では金賞を取ってしまうんですね。私は音楽に何か可能性があるんじゃないかと思ったわけです。でも芸術の世界は水物です。しかも私は妄想癖がありうぬぼれも強い。音楽をやりたいけど不安もある、そんな感じでありました。

話は戻りますが、小学校高学年から中学校時代は、病気の症状が再び悪化、ほとんど寝たきりで、それは大変な毎日でした。そんな私を唯一慰めてくれたのが松田聖子さんの歌でした。歌声にすごく引かれ、目を閉じて聞いていました。規則正しさが求められる集団生活ではなかなか自由にテレビも見せてもらえず、カセットテープで聞くしかありませんでした。

自分を変える作業

病気というのは、今の新型コロナウイルスもそうですが、私たちを試すかのようにどんどんやってきます。そこで気づきもあったり、成長を促されたりする部分もあるわけですが、そこは人間なので、私は病気をものすごく呪いました。そういうものは、やはり歌とか音楽に乗るんでしょう。だから、「もののけ姫」はよくぞ自分に来たなと思います。

さて、私自身、「もののけ姫」でブレイクしてしばらくたった時、だんだん歌が歌えなくなる状況に陥ります。様々な出会いによって気付かされるわけですが、自分の中にも悪いところや足りないところ、決して被害者ではないのにそういった意識があることや自分自身に負けたりしていることが沢山あり、もう一度それらを乗り越え、やり直したいと思うようになりました。

具体的な話を紹介しましょう。30歳の頃には、ついに声も出なくなりました。“はりつめた弓の”まさにその糸が切れてしまったんです。その時出会ったのが東洋医学の整体のある先生でした。丁寧に凝り固まった身体と心を解きほぐしながら、先生から原因は体だけではなく、心と体の関係によるところも多いと教えていただき、自分自身の考え方の癖や性分が体を困らせることがあり、それを乗り越えていかなければならないと優しくも厳しい言葉もいただきました。優しいだけでは、変われなかったと思います。私は先生の厳しい言葉に、親以上の愛を感じ、心を開き、ついでにこう、頑張ろうと思って自分を変える作業に着手しました。

愛されるから愛しくなる

当時先生から何度も指摘され気づきましたが、人に言われないと深いところでは分かっているくせに、都合よく自分のことを解釈して生きるのが人間であり、特にその傾向が私は強いようです。あの世で閻魔大王から「よく頑張った」と褒めてもらえるように残りの人生を掛けて一生懸命取り組んでいるところなのです。

だから、今では、これまでできなかった、つらかったという話はあまりしたくありません。真実としてこうしたセミナーでお伝えする役割は果たしておりますが、これだけ落ち着いて話せるようになったということ自体が、今までの勉強により、私の血となり肉となった結果だと思っています。最近、過去の辛いことも記憶が次第に薄らいできているのですが、今が充実して、皆さまとの出会いなど、今の出会いが本当に嬉しくてありがたいからだと思います。

かつては人が怖く、また、人に嫌われたくないのに、わざと嫌われるように振る舞っていたようにも思います。与えられるべきものが不足していたのかもしれませんが。だからやはり、親が親になるべき学びをして、十分な愛を、子どもに伝えていくことが大事なんだと思います。やっぱり誰もみんな幸せになり、愛されるべきだと思います。愛されるから愛しくなるんですよ。

私ははまだ道半ばですが、まず私が自分の責任として幸せで満たさないと、と思っています。本日までご参加の皆さま、私の話を聞いて、ああ自分も幸せになってもいいんだと思っていただけたらと思います。

笑顔でいること

私は一つ大事にしていることがあります。

それは笑顔でいる事です。

今マスクの世の中で口元が見えず、目が怖いと感じることもあり、一生懸命鏡を見て笑顔の練習をしています。

実は、本来自分は笑えないんです。あまりに泣いたり苦闘したりが多かったため、人が羨ましくてたまらなかつたんです。どうして自分だけが…と。でもようやく気付きました。アランというペンネームのフランス人の方が、著書の『幸福論』の中で、おおむねの訳でお許しいただくとして、次のように書かれています。「笑顔でいることは周りにいる方々に対する大事なマナーである。笑顔でいるから自身の心が温かくなったり、前向きな行動に反映されたりする。そういう人の微笑みを見ると、“人”は何かいいことがあるんじゃないかと、幸せが来るんじゃないかと、近寄ってくる」と。そういう輪が広がれば社会もそのように広がっていくと思うのです。

日々の努力を重ねていけば運も回ってきます。私は、小さなそういう変化や幸せにすごく希望を感じて

います。誰かが幸せにしてくれるのではなく、自分自身が幸せになれる時代がやってきたのだと思います。

みんながそういう前向きなもの、明るいものを発露し始めれば、多分、勝手にいい世の中になっていくのだと思います。隣にいる人をほっこりさせることで幸せに近づくのではないかと、日々努力しております。

皆さまの人生が笑顔溢れる素敵なものでありますようにお祈りし講演を終わります。